

令和3年鳥取県山間集落实態調査の集計結果（概要版）

<調査の枠組み>

□調査概要

中山間地域振興施策の検討を行うため、特に過疎化及び高齢化の進展が著しい山間地域に居住する住民の日常生活の状況等の実態把握を行った。

□調査対象集落

山間谷部奥地に位置する集落から選定（平成2年から約5年おきに同一集落を対象に調査）
（県内16市町、113集落、2,379世帯、5,951人）※市町の要望で平成28年から2集落を追加

□調査基準日

令和3年5月1日

□回収率

集落調査 100%（113集落/113集落（※））※111集落と追加2集落の合計

世帯調査 74.7%（1,776世帯/2,379世帯（※））※111集落2,366世帯と追加2集落13世帯の合計

1 人口・世帯数・高齢化率の推移《集落点検調査より》

人口・世帯数の減少及び高齢化はさらに進行し、独居世帯の比率も高まっている。

| 区分 | 平成7年 | 平成12年 | H7との差 | | 平成18年 | H12との差 | | 平成23年 | H18との差 | | 平成28年 | H23との差 | | 令和3年 | H28との差 | |
|-----------|---------|---------|--------|--|---------|--------|--|---------|---------|--|---------|---------|--|---------|---------|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 集落人口(人) | 11,006 | 9,620 | -1,386 | | 8,870 | -750 | | 7,844 | -1,026 | | 6,766 | -1,078 | | 5,926 | -840 | |
| | 100.0% | 87.4% | -12.6% | | 80.6% | -6.8% | | 71.3% | -9.3% | | 61.5% | -9.8% | | 53.8% | -7.6% | |
| 県全体 | 614,929 | 613,289 | -1,640 | | 607,012 | -6,277 | | 588,418 | -18,594 | | 573,648 | -14,770 | | 553,847 | -19,801 | |
| | 100.0% | 99.7% | -0.3% | | 98.7% | -1.0% | | 95.7% | -3.0% | | 93.3% | -2.4% | | 90.1% | -3.2% | |
| 集落世帯数(世帯) | 2,912 | 2,786 | -126 | | 2,736 | -50 | | 2,654 | -82 | | 2,485 | -169 | | 2,366 | -119 | |
| | 100.0% | 95.7% | -4.3% | | 94.0% | -1.7% | | 91.1% | -2.9% | | 85.3% | -5.8% | | 81.3% | -4.1% | |
| 県全体 | 188,866 | 199,988 | 11,122 | | 208,526 | 8,538 | | 211,832 | 3,306 | | 215,542 | 3,710 | | 218,964 | 3,422 | |
| | 100.0% | 105.9% | 5.9% | | 110.4% | 4.5% | | 112.2% | 1.8% | | 114.1% | 1.9% | | 115.9% | 1.8% | |
| 高齢化率(%) | 28.1% | 34.5% | 6.4% | | 38.7% | 4.2% | | 40.8% | 2.1% | | 45.5% | 4.7% | | 49.8% | 4.3% | |
| 県全体 | 19.3% | 22.0% | 2.7% | | 24.1% | 2.1% | | 26.3% | 2.2% | | 29.7% | 3.4% | | 32.5% | 2.8% | |

(注1) 調査開始時点の調査集落(111集落)の推移

(注2) 県全体の数値は「令和2年国勢調査による人口・世帯数(速報値)」、「鳥取県の推計人口(令和2年10月1日現在)」を使用

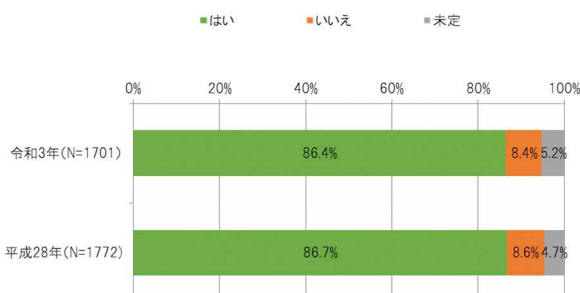
| | 平成18年 | 平成23年 | 平成28年 | 令和3年 |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 独居世帯 | 419 | 507 | 605 | 643 |
| 独居世帯の割合 | 15.3% | 19.1% | 24.3% | 27.4% |

2 定住の意向《世帯調査より》

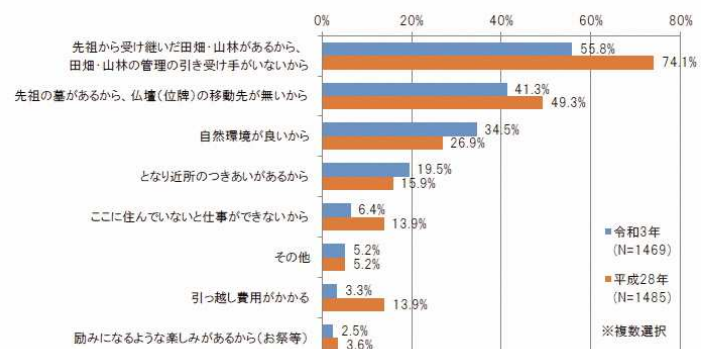
定住の意向は強く、先祖から受け継いだ財産の保全に対する意識は高い。

また、自然環境が良いことを定住の理由とした回答が増加している。

定住の意向



今後も住み続けるとした理由

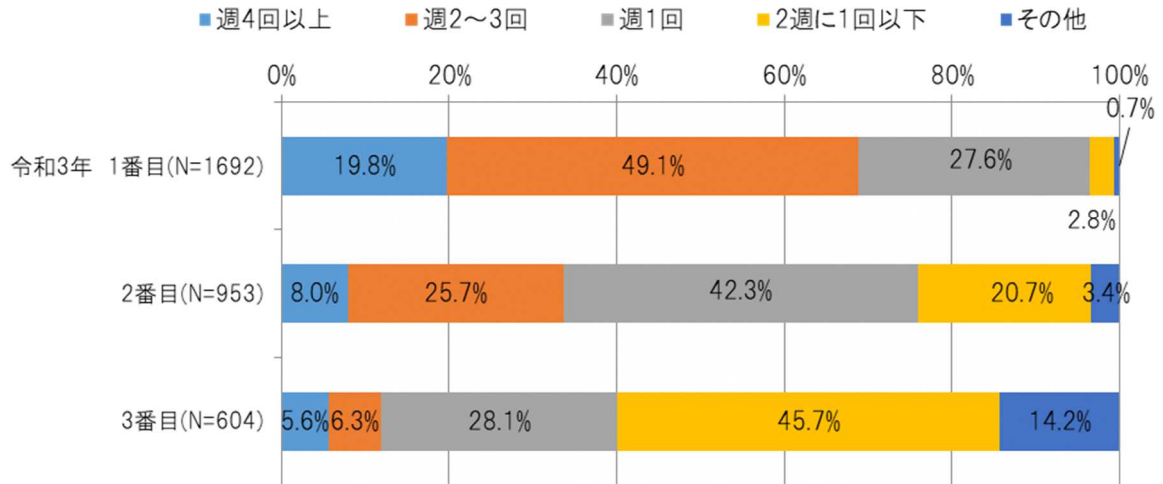


3 日常生活の状況《世帯調査より》

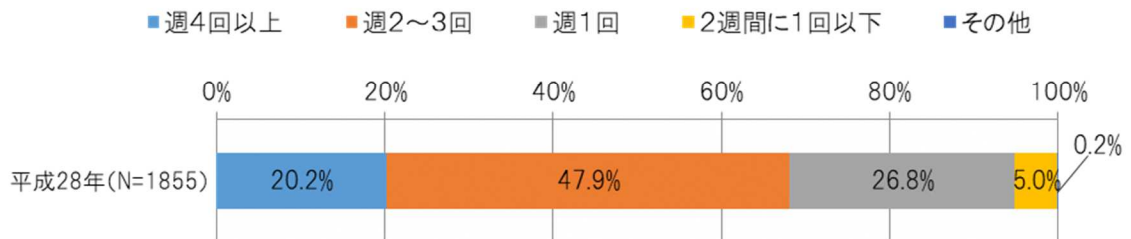
(1) 買い物の頻度について

買い物の頻度については、1番目に多い買い物方法を前回と比較する限りで顕著な差はない。

令和3年：日常の食料品・日用品の買い物で、1番目、2番目、3番目に多い買い物方法の頻度

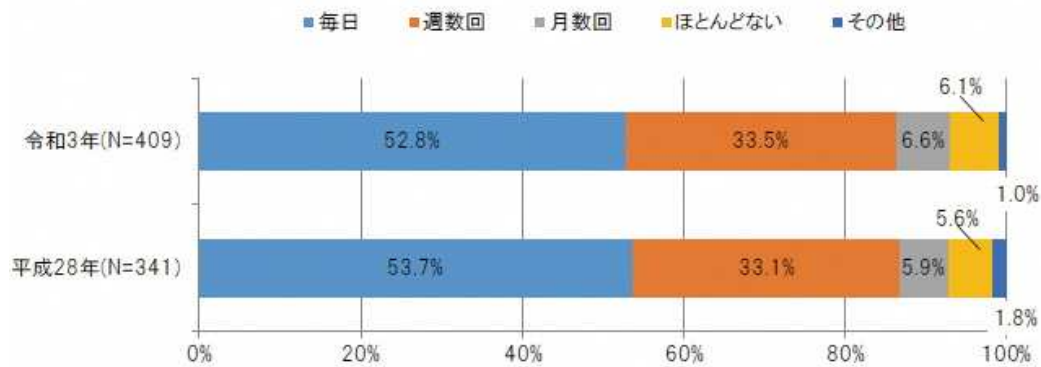


平成28年：日常の食料品の調達頻度



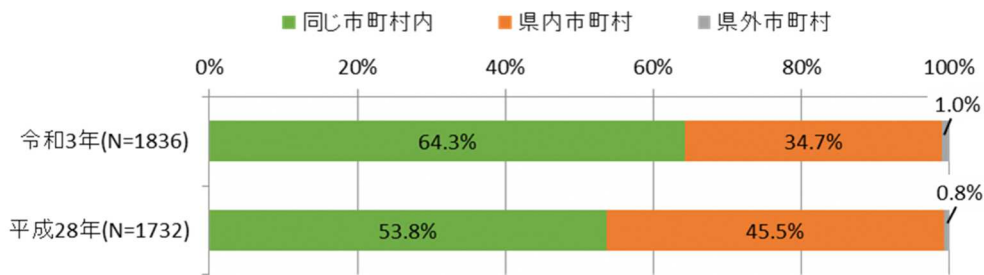
(2) 一人暮らしの方のうち、誰かと話をする機会

毎日誰かと話をしている方は前回と変わらず半数以上を占めている。



(3) 通院先について

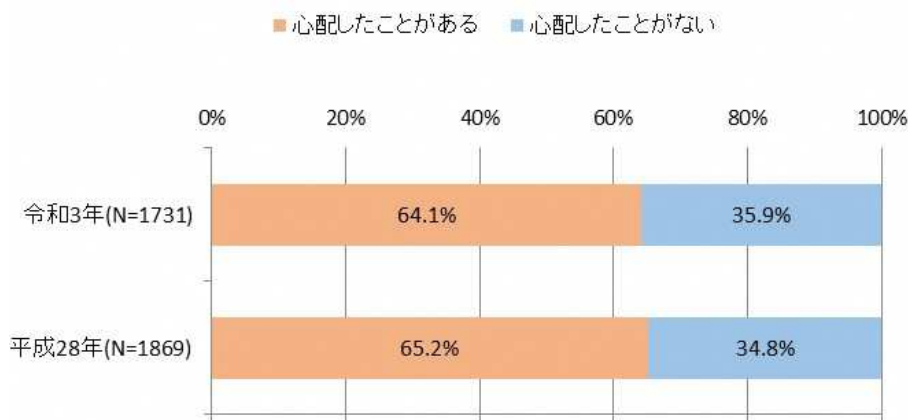
同じ市町村内に通院している方が増加している。



4 住民の暮らしの安心の状況《世帯調査より》

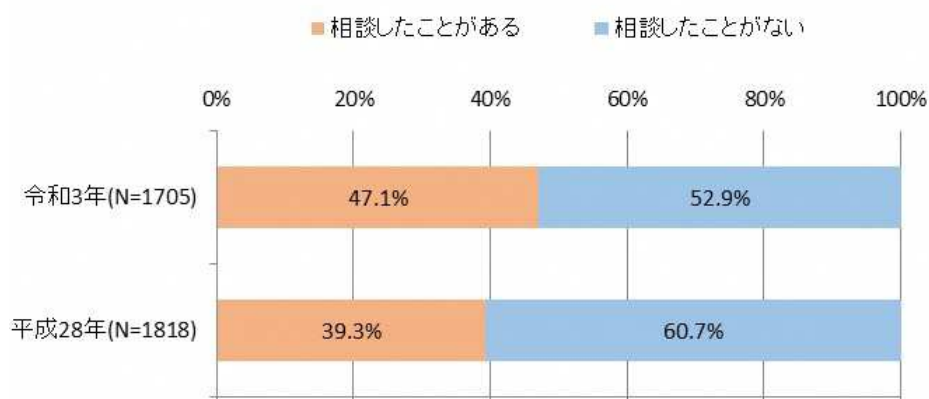
(1) 災害時（土砂崩れ、大雪など）に孤立することへの心配について

災害時の孤立に対する心配は前回とほぼ同じ割合である。



(2) 災害時に家族との連絡方法を相談しているかどうかについて

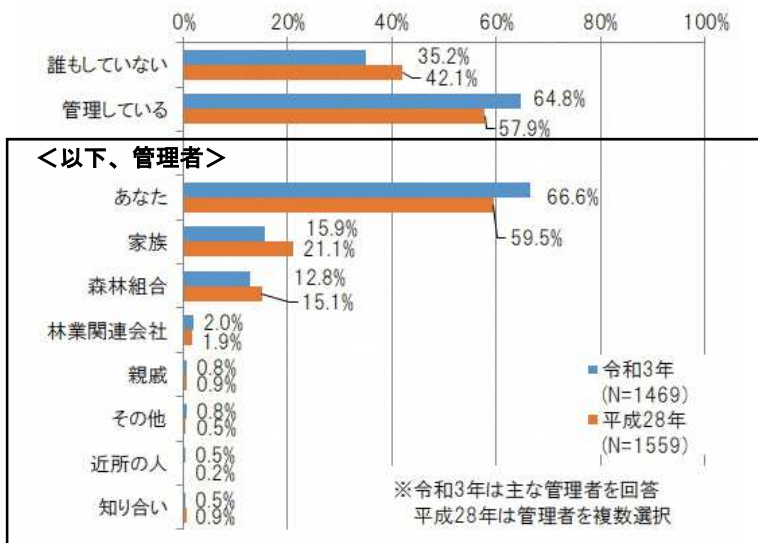
災害発生時に2次被害を防ぐため、家族との連絡方法を相談した方が増加しており、5割近くになっている。



5 財産管理の状況《世帯調査より》

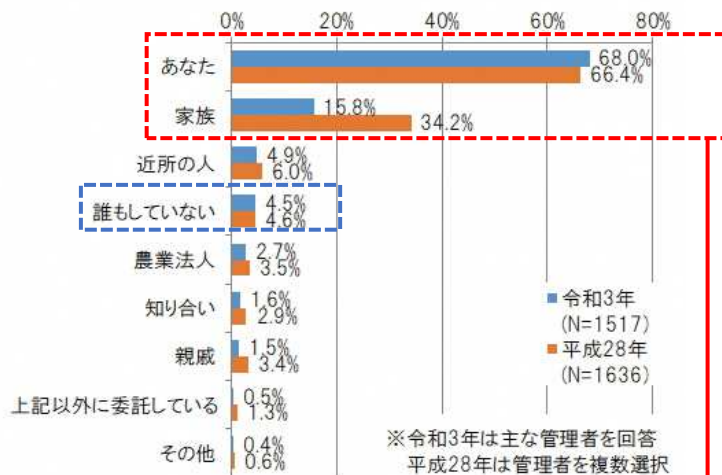
(1) 所有する山林の管理について

調査対象集落において、山林の管理を誰もしていないとの世帯が35%を占めている。



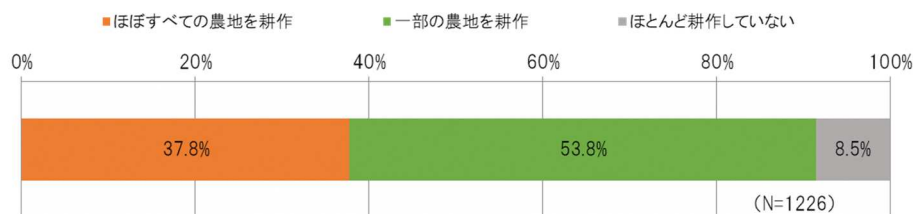
(2) 農地の耕作または管理について

農地を誰も管理していない割合は5%ほどである。

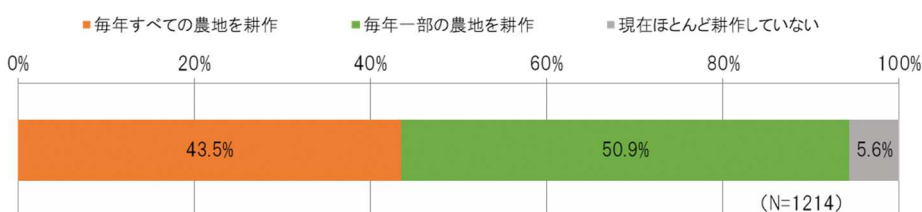


(あなた・家族が管理している場合の耕作範囲)

令和3年

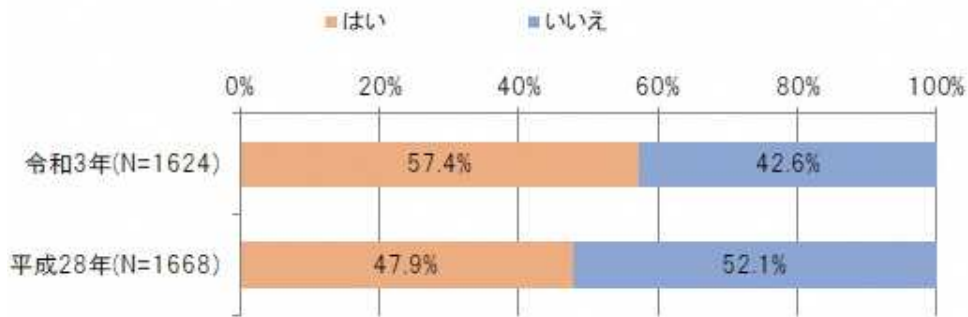


平成28年

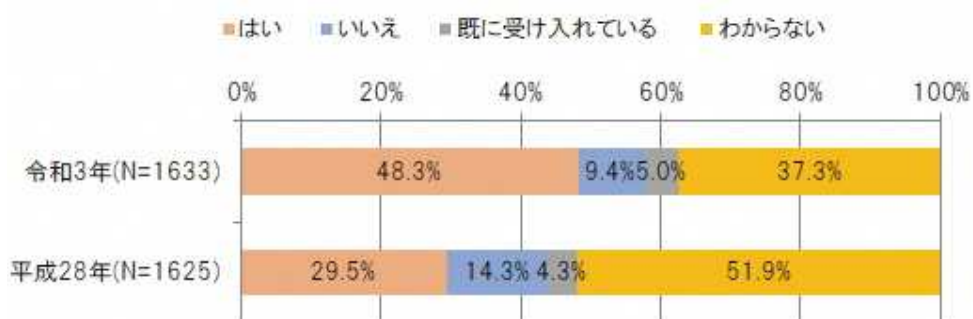


6 地域おこし協力隊・集落支援員《世帯調査より》

- (1) 「地域おこし協力隊・集落支援員」の制度を知っているかどうかについて
制度の存在を知っている世帯が増加している。



- (2) 「地域おこし協力隊・集落支援員」を集落に受け入れたいかについて
受入れに肯定的な回答が増加しており、5割近くになっている。



7 集落の運営《集落点検調査より》

集落を越えた取組の必要性について

協議会、区長会等を設置し、集落を超えた取組、活動をしている集落が多くなっている。

